

<h2 style="margin: 0;">年間目標</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ●保健的で安全な環境のもと、一人ひとりの欲求を十分に満たし快適に過ごせるようにする。 ●自分で出来る事を進んで行き、基本的な生活習慣の確立を図る。 ●いろいろな経験を通して生活に必要な言葉を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会や自然の身近な事象と関わるなかで豊かな感性を育む。 ●友達と一緒に遊ぶ事を通し、関わりを深めながら集団としての活動を楽しむ。 ●ピアノの伴奏に合わせて走ったり、跳んだり、転がったりしてリズム運動に親しむ。
----------------------------------	---	---

	子どもの姿と育てたい側面	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活に楽しみを感じつつも、不安を抱いたり、緊張したりする子どもがいるので、次第に保育教諭に親しみをもち、安心感や信頼感がもてるようにしていきたい。 ●一人で遊ぶ子、同じ場所にも友達との関わりがまだ見られない子、なんとなく保育教諭の周りにはいる子など、様々な様子の子どもがいるので、一人ひとりが安心して居場所を見つけ、自分からやりたいことを見つけて十分に遊べるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●園生活の1日のおおよその流れが分かり、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性がわかる。自分でできることは自分でしようとする意欲を育てたい。 ●生活の中に、保育教諭や友だちと一緒に簡単に体を動かす遊びを取り入れ、みんなと一緒に遊ぶと楽しいという気持ちを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活範囲が広がり、活発に活動するようになる。更に新しい事物への関心を高め、チャレンジする。戸外で思う存分体を動かして遊ぶ楽しさを経験しながら安全な遊具の扱い方を知るとともに、自然との関わりを十分にもてるようにしたい。 ●周囲の子への関心が出てきて、新しい関わりが生まれ、同じ場所で遊ぶことを喜ぶ。 ●時には思いが違ったりするが、様々な機会を通して友だちとふれあい、一緒に遊ぶ楽しさを味わわせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭との関わりも楽しさが増えてくる。家庭ではできない、園ならではの遊びの取り入れや、子どもの興味や関心を生かして新しい遊びの楽しさを味わえるようにして、経験の幅を広げたい。 ●生活の流れがわかり、身の回りの準備や片付けなどを自分でしようとする。
	期	I期 (4~5月)		II期 (6~8月)	
	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●園生活に慣れ、保育教諭に親しみを感じて安心して過ごす。 ●生活の仕方がわかり、できることは自分でしようとする。 ●自分で好きな場や遊具、遊びを見つけて自分から遊ぶ楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保育教諭や友だちとふれあって遊ぶ楽しさを味わう。 ●戸外で身近な自然にふれて気持ち良く過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●戸外で体を思いきり動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ●友だちとのふれあいの中で、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ●思ったことや考えたことなどを表現し、いろいろな素材や用具の扱いを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な自然にふれて、季節感のある遊びを十分に楽しむ。 ●梅雨時や夏の生活の仕方を知り、健康に生活する。
指導内容の視点	心と体の健康 人との関わり 環境との関わり 言葉の育ち 表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ●食事、排泄、着脱などの基本的な園での生活の仕方を知り、自分でしようとする。 ●保育教諭や友だちと一緒に思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ●園の遊具や用具に親しみ、安全な遊び方や扱い方を知る。 ●交通の決まりや安全な歩行や、避難の仕方を知る。 ●園での1日の流れや生活の仕方を知る。 ●持ち物の準備や始末を自分でしようとする。 ●保育教諭とのやり取りを楽しみ、親しみをもち。 ●友だちと一緒に楽しみながら食べる。 ●友だちと同じことをしたりふれあったりして楽しむ。 ●戸外で身近な自然にふれ、心地良さを味わう。 ●公共機関でのルールやマナーを知り行おうとする。 ●異年齢児との関わりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な遊具や用具などの扱い方を知り、それを使って遊ぶことを楽しむ。 ●日常の生活に必要な挨拶をする。 ●友だちと一緒に保育教諭の話を親しみをもって聞く。 ●してほしいことや困ったことなどを保育教諭にいろいろな方法で伝えようとする。 ●絵本や紙芝居などの内容や物語に興味をもち楽しむ。 ●音楽やリズムに合わせて、動いたりやり取りをしたりする。 ●身近な素材に親しみ、描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ●生活の中で、いろいろな音・形・手触りなどがあることを感じて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●のびのびと体を動かし、様々な遊びを楽しむ。 ●全身を使って水遊びを楽しむ。 ●遊具や用具の扱い方を知り、安全に使う遊ぶ。 ●雨が続く日や暑い日の生活の仕方を知る。 ●園生活の決まりに気付く、約束を守ろうとする。 ●着脱や身の回りの始末の手順が分かり、自分のことは自分でする。 ●簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ●友だちに親しみをもち、同じことをしたり関わりたりして遊ぶ。 ●身近な昆虫や動植物に関心をもち、飼育や栽培を通して愛情やいたわりの気持ちをもつ。 ●雨、風などの音、草花の色などに興味をもち、自然の不思議さや美しさを感じる。 ●水や砂、土の感触を味わいながら自分なりに試したり発見したりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●夏野菜を育てることに興味をもち、収穫や食べることを楽しむ。 ●具体的な物を通して、数や量、色や形などに関心をもつ。 ●日常生活や友達との遊びの中で必要な言葉の使い方に気付く。 ●したいことやしてほしいこと、思ったことなどを保育教諭や友だちに言葉で伝える。 ●クラスや友だちと一緒に絵本や童話など、繰り返しのおもしろさを楽しむ、興味をもって見たり、聞いたりする。 ●歌や曲に合わせて楽器を使ったり、自由に動いたりして楽しむ。 ●自分のなりたいものになって、動く楽しさを味わう。 ●粘土など、作ったり壊したりすることを繰り返し工夫して遊ぶ。 ●身近にあるいろいろな素材や用具に親しみ、描いたり、作ったりすることを楽しむ。
	環境構成の要点	<ul style="list-style-type: none"> ●楽しく登園できるように、家庭での遊びと関連のある材料や遊具を準備するとともに一人ひとりが落ち着ける場を確保する。 ●徐々に遊具の種類を多く用意し、一人ひとりの子どもが自由に使い、無理なく新しいことにも興味をもって参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●進級児には、今まで親しんできた遊具などを用意し、集団生活の経験の違いに配慮する。 ●好きなことが見つかったら、少人数でじっくり取り組めるような場をつかって安心して遊べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが園での遊びに興味や関心をもって自分から遊びや活動に取り組めるよう環境を構成し、一人ひとりの遊びや興味の変化を把握して、環境を再構成する。 ●自然と十分にふれあいがもてるよう、園庭の栽培物、小動物などの環境を整備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●梅雨や夏ならではの季節を考え、環境を構成するとともに、静と動のバランスを考え、気持ちを発散できるように工夫する。
	☆保育者の関わり・援助(養護含む)	<ul style="list-style-type: none"> ★一人ひとりの子どもを温かく受け止め、触れ合う中で安心感を与え、園生活の楽しさや生活の仕方がわかるように丁寧に関わる。 ★楽しい、おもしろいと思えるような遊びを考えて、子どもと一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★新入園児と進級児の遊び方や生活の仕方の違いに配慮し、一人ひとりが安心して取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★友だちとの接し方や遊びへの参加の仕方がわかるよう、場面を捉えて保育教諭が仲立ちとなり援助する。 ★一人ひとりの子どもを理解し、気持ちを受け止められた喜びが感じられるように働き掛けをして、信頼感を深めていく。 ★適度に休息をとれるよう、活動の時間や流れ、場の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★新しい遊びの楽しさが味わえるように、保育教諭がモデルとなって積極的に提案していく。 ★みんなでルールのある遊びが楽しめるように、クラスでのゲーム遊びなどでは、視覚的にルールを知らせ、場所や時間に配慮していく。
	家庭や地域との連携(小学校との連携も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達の緊張と不安を十分に受け止めるとともに、安心して登園できるように保護者から家庭での様子を聞き、理解に努める。 ●緊急時の連絡方法や避難場所、登降園時の交通安全について保護者へ説明し、協力を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスだよりやホームページなどを通して子どもの様子をこまやかに伝え、園と家庭が互いに情報交換しながら子どもの成長を支え合うことができるように関係をつくる。 ●家庭・地域訪問などを通して、子どもの生活環境を把握し、必要に応じて安全対策などの協力を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども同士トラブルなどは、発達の自然な姿で、成長の機会であることを知らせ、理解や協力を求めていく。 ●保育参観で子どもの育ちを伝えて、園の教育方針の理解を促す。 ●保護者の不安や疑問には丁寧に対応し、家庭との信頼関係を築くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●園での生活や遊びの様子を通して子どもの成長(姿容)を相互理解し、共に子育てをして信頼関係を深めていく。
	園生活の自立に向けての配慮点	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい環境の中で、周りの様子を気にして、思いや考えを表出することを抑えてしまう子どももいる。一人ひとりが自分を素直に表せるように、ありのままの姿を受け止め、丁寧に関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●湿度と気温の高い時期で汗をかきやすいので、水分の補給、着替えなど一人ひとりの様子を把握し、子どもが自分から取り組めるようにする。活動の流れ(つながり)を大切に、時間や教材にゆとりをもっていく。 		

